

# Chiba Rosai News

千葉ろうさいニュース

Vol.19

平成30年7月1日



薬 剤 部

## 目次

### 2・3

#### 薬剤部のご紹介

薬 剤 部 長 中村 智  
薬 剤 副 部 長 渡辺 貴志  
主 任 薬 剤 師 山野 惣平  
主 任 薬 剤 師 松本 哲哉  
主 任 薬 剤 師 月光 淳  
主 任 薬 剤 師 山本亜紀子

### 4

#### アレルギー・膠原病内科のご案内

### 5

#### 熱中症対策

### 6

#### 第1回 院内災害訓練 夏の食中毒予防について

### 7

#### 連携登録医のご紹介 斎賀医院

### 8

#### 当院の理念

発行責任者／河野陽一

発 行／千葉労災病院 <http://www.chibah.johas.go.jp>  
〒290-0003 千葉県市原市辰巳台東2丁目16番地  
TEL.0436-74-1111 FAX.0436-74-1151

# 薬剤部の

## 薬剤部のご紹介と今後の展開について

千葉ろうさい病院は地域医療のリーダー的存在であり、地域の患者さんに高度な先端医療を提供することが大きな役割の一つです。そして我々薬剤師は薬のスペシャリストとして日常診療のみならず高度医療の現場で、必要な薬の最新情報と知識を提供し、常に薬物療法の有効性と安全性を支える一員として日頃から頑張っています。

当院は、「安全で質の高い医療」、「基幹病院として、急性期・予防医療を中心とする地域への医療」「働く人の健康と社会復帰」、「地域の薬局及び病院同士の連携」、「高い技能を備えた医療人の育成」が基本理念であり、様々な活動を院内と院外で行っております。

そして最近の医療と医薬品の急速な進歩に敏感に反応し、チーム医療の中から多種の疾患に対する薬の有害事象・副作用の回避に努めながら、医師、他の医療職種へ知識を提供していくことで、患者さんにより高品質で安全な治療を行っています。

また当院薬剤部では、医薬品の情報収集、調剤や品質管理だけでなく、注射薬の無菌調製、抗がん剤の調製などの特殊な技術を通して、患者さんに投与される医薬品の品質を保証すること、流行感染症の制御（ICT）、栄養の管理（NST）、また投与された薬物の血中濃度のコントロールや投与量の設計を考えるとともに、新しい薬を開発する治験業務にも力をいれています。また入院された重篤な患者さんに対しては、病棟の専任薬剤師を通し、患者さんに対して投与された薬物の有効性・安全性の確保に積極的に取り組んだ活動も行っています。病院薬剤師はジェネラリストを基本にスペシャリストへの変革期を迎えております。近い将来で考えると2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けたドーピングに関する専門薬剤師スポーツファーマシストの認定、またその後、2025年以降の大きな課題でもある高齢社会への備えとして、様々な疾患に対応できる専門薬剤師の養成を始めており、認定資格取得後の薬剤師は、診療の場面でその専門性を発揮しながら、他の医療スタッフへの知識も向上させ、次世代の将来を担う地域の薬学生にも、学生実習を通して専門知識を教える事で市原市地域に貢献しております。

薬剤師は、院内の医療スタッフの中で、病因や病態解明に物質面からアプローチし得るといった特徴を持っており、薬に関するエキスパートです。引続き、患者さんからのご意見・ご要望を聞かせていただくことで、私たちは職能を一段ずつ高める成長へとつながります。ご質問等があれば遠慮なくお話を聞かせていただけたらと思います。そして、これからも患者さんとそのご家族に最適な薬物療法を提供できるよう努力し、市原市で業務展開をしていきたいと考えております。

## チーム医療

薬剤師を取り巻く環境は、医療制度の改革や社会保障制度の見直しにより、変化しています。そして、安全・安心かつ良質で適切な薬物治療の推進と医療提供体制を支えるチーム医療の中で、薬の専門家としての役割を担っています。薬剤の適正使用に向けては複数種類の医薬品処方適正化、また、革新的医薬品の使用の最適化推進に貢献できるよう努めています。「薬のあるところに薬剤師あり」を実践できるよう、病棟業務に加えて、外来業務（周術期の対応を目的とした術前外来等）への展開を行っています。チーム医療（多職種協働による医療）は感染制御チーム、緩和ケアチーム、栄養サポートチームに参加、また、より良いがん薬物療法を行えるよう薬学的管理を行っています。

今後、薬物療法における外来と病棟との連携等を強化して、患者さんの状態に応じた支援体制や地域との連携を展開することが重要であると考えておりますのでよろしくお願い致します。



薬剤部長  
中村 智  
なかむら さとし



薬剤副部長  
渡辺 貴志  
わたなべ たかし

# ご紹介

## 抗がん剤の適正使用について

当院は地域がん診療連携拠点病院の指定を受けています。薬剤部では抗がん剤治療が適正に行われているか、薬剤師の視点から投与量、投与回数、休薬期間、検査値、副作用の状況など安全の確認を行っています。

また、各診療科の抗がん剤治療の必要なサポートのため、薬剤部では抗がん剤の調整を行っています。1日の調整件数は約50件をこえることも多くなってきました。抗がん剤の調整時において、抗がん剤の接触により場合によっては調製者の皮膚炎等の発症や繰り返しの被曝により、発がんの危険性があると言われてしています。このため、安全で適正な抗がん剤を患者さんに提供するとともに、職員の安全性も配慮しながら行っています。

今後も薬剤部がチーム医療に貢献できるようにしていきたいと考えていますので宜しくお願いいたします。



## 抗菌薬の適正使用について

医学の進歩と共に新薬の開発が目覚ましい昨今ではありますが、新規抗菌薬の開発は滞っており、感染症治療の環境は厳しい状況にあります。新たな耐性菌が世界規模で拡散している現代、その蔓延を防ぐには、既存の抗菌薬をいかに有効に使用するかが重要となります。

当院で今年4月に結成された、抗菌薬適正使用推進チームAST (antimicrobial stewardship team) は、抗菌薬使用症例に積極的に介入し、感染症罹患患者を主治医と共に治療しています。薬剤部員もチームのコアメンバーとして抗菌薬適正使用をサポートしています。



## 医薬品情報について

医薬品情報室の薬剤師として、医薬品に関する情報を収集、管理、評価し、患者さんだけでなく医師、看護師、薬剤師など関係する医療スタッフへ情報提供を行い、医薬品の適正使用に繋がるように薬物療法の支援を行っています。

質の高い薬剤情報を提供するために日々更新される医薬品情報を把握し、伝える相手によって表現や言葉を変えてわかりやすく必要な情報を提供することを心掛けています。



## 入退院支援センターへの薬剤師の関わりについて

千葉ろうさい病院では、近いうちに、新しく入退院支援センターが開設される予定です。

入退院支援センターでは、予約入院となる患者さんが安心して入院生活を送れるよう、専任の看護師をはじめ、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多分野の専門職が関わり、入院前から退院後の療養まで支援いたします。

薬剤師は、入院前に持参されたお薬やお薬手帳の内容を調査して、手術や検査の際に休止が必要なお薬がないか確認し説明いたします。

普段使用しているお薬を正確に把握する必要がありますので、お薬の名称や飲み方が記載されているお薬手帳等を必ずお持ちください。



# アレルギー・膠原病内科のご案内

## 担当医（紹介制）

火曜午前	中島裕史、玉地智宏
金曜午前	前澤裕子



中島 裕史 先生

「免疫」とは体内に侵入した病原体や異物を攻撃し排除する仕組みです。「アレルギー」は免疫が異物を排除しようと過剰に反応してしまう状態を言います。一方で「膠原病」は免疫が自分の体を敵としてみなして攻撃してしまう疾患です。

免疫は一つの臓器にとどまらず全身を監視しているシステムであるため、病状も多岐にわたります。アレルギー・膠原病内科では様々な症状に気を配りながら、以下のような疾患を対象に内科診療を行っております。

## 1. アレルギー疾患

気管支喘息、アナフィラキシーの原因精査、成人の食物アレルギーや薬剤アレルギー（薬疹は除く）の原因精査、好酸球増多疾患などになります。

診療にあたっては、詳細な問診、特異的IgE検査などによりアレルゲンの同定を試み、アレルゲン除去の指導を行います。

喘息に対しては、診療ガイドラインに沿った吸入ステロイドを中心とした治療を行います。難治性喘息に対しては分子標的薬治療も導入しております。

アトピー性皮膚炎や花粉症もアレルギー疾患ですが、局所療法が中心となるため、それぞれの該当の診療科（皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科）にお願いしております。

食物アレルギーに対する免疫療法は、少なくとも成人においては確立しておらず、実施しておりません。また化学物質過敏症の診療は行っておりません。

## 2. 膠原病疾患

対象疾患は、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群、強皮症、混合性結合組織病、多発性筋炎／皮膚筋炎、血管炎症候群（高安動脈炎、ANCA関連血管炎など）、シェーグレン症候群、ベーチェット病、成人型スティル病、リウマチ性多発筋痛症、強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、反応性関節炎、IgG4関連疾患などになります。

膠原病と聞くと、一般の方には「難病」の印象があるかもしれませんが、障害される臓器やその程度は患者さんごとにそれぞれ異なっています。そのため一部に「難病」と言えるような重症な患者さんがいる一方で、診断がついても治療を要さない場合もあります。

膠原病の診療にあたっては、膠原病によりどの臓器がどの程度障害されているかを評価したうえで、必要であればステロイド薬、免疫抑制薬などによる集学的な治療を行います。その際には、感染症や骨粗鬆症といった合併症の予防にも留意する必要があります。

膠原病のなかでも最も頻度の多い関節リウマチに対しては、抗リウマチ薬に加え、分子標的薬を用いた治療を積極的に導入し、寛解を目指した治療を実践しております。

なお、外来診療は完全紹介制となりますので、受診に当たっては、かかりつけ医等からの紹介状をお持ちください。病状等により必要と判断された場合には、大学病院など近隣の医療機関と連携して診療にあたる場合があります。また、線維筋痛症の診療は行っておりません。



# 熱中症対策をしましょう



重症・救命科 門馬秀介

熱中くん

## 熱中症とは？



高温多湿な環境下にて体内の水分及び塩分バランスの崩壊、体内調整機能の破綻などで発症します。I～III度で分類します。

## 症状は？

めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直、大量の発汗、頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感、意識障害・痙攣・手足の運動障害、高体温などの症状が現れます。重症になると命の危険にさらされます。

## WBGT値？

人体に与える影響の大きい ①湿度、②日射・輻射（ふくしゃ）等の周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた暑さの指標です。

## 予防と対策

- ・屋内でも室内の温度設定にはバラつきがあり、高温多湿、高CO2環境になりやすいこともあります。
- ・熱中症はならないようにすることが大事です。

⇒すなわち **予防が大事**

## 熱中症の種類

新分類	症状	治療	従来の分類(参考)
I度	めまい、大量の発汗、欠神、筋肉痛、筋肉の硬直(こむら返り)	冷所での安静、体表冷却、経口的に水分とNaの補給	熱失神 熱けいれん
II度	頭痛、嘔吐、倦怠感、虚脱感、集中力や判断力の低下	医療機関での診察が必要→体温管理、安静、十分な水分とNaの補給	熱疲労
III度(重症)	下記の3つのうちいずれかを含む (1) 中枢神経症状(意識障害、小脳症状、痙攣発作) (2) 肝・腎機能障害 (3) 血液凝固異常	入院加療(場合により集中治療)が必要→体温管理、呼吸、循環管理、DIC治療	熱射病

熱中症は死ぬ可能性があります

## 熱中症による死亡場所



2010年7月17日～8月6日までの熱中症による死亡者を見ると、95.8%が住居内で死亡しています。屋外や車内はわずか4.2%です。(東京都監察医務院調べ)



暑さ指数(WBGT) =



## 清涼飲料水 比較

成分	アミノパルメー	アサエリクス	ビタモンオー	ポカリスエット	ゲータレード	ヴァームウォーター
エネルギー	18kcal	19kcal	18kcal	25kcal	26kcal	0
タンパク質	1g	0	0	0	0	0.3g
脂質	0	0	0	0	0	0
炭水化物	3.6g	4.7g	4.8g	6.2g	6.4g	0.71g
ナトリウム	49mg	34mg	16mg	49mg	48mg	24mg
カリウム	200mg	8mg	10mg	20mg	24mg	12mg
マグネシウム	1.2mg	1.2mg	1.2mg	0.6mg	-	1.2mg
カルシウム	-	-	0.8mg	2mg	-	4.6mg
リン	-	-	11mg	-	20mg	-
グルタミン酸	-	-	-	-	11mg	-
アミノ酸	1000mg	27.5mg	-	-	-	-
クエン酸	400mg	-	-	-	-	-
ビタミンC	-	-	200mg	-	-	-

多くの飲料はナトリウム等不足しています

1. 高温、特に**多湿**をさける
2. 自覚症状の有無にかかわらず **水・塩分**を摂取する
3. WBGT値の測定、低減に努める
4. 冷房を備えた休憩場所を設ける

## 第1回 院内災害訓練

5月11日に当院初の災害訓練を行いました。近隣で脱線事故が発災した想定で、傷病者40名を受け入れる訓練を行いました。各職種・部署間での改善点が明確になり、平時の訓練の重要性を再確認できました。また当院は災害拠点病院・DMAT指定施設となり、災害に強い病院を目指していることから、今年度は2回の災害訓練を予定しています。来たる、11月の災害訓練では当院が被災した状況下で、地域・行政・医療機関・消防・警察などの諸機関と伴に連携した訓練を行っていきたいと考えています。



まず、本部が立ち上がります



情報収集と共有をしています



トリアージポストから各エリアへ傷病者を搬送しています



治療最優先エリアで傷病者の治療をしています

## 夏の食中毒予防について

食中毒は1年中発生していますが、気温や湿度が高くなる6月～8月にかけては、原因となる細菌が繁殖しやすい季節となり、細菌による食中毒が多くなります。食中毒予防の3原則は、「つけない」「増やさない」「やっつける」です。

当院の給食における、大量調理衛生マニュアルに基づいた食中毒予防の取り組みについてご紹介します。

### 原則1 細菌をつけない

- ・正しい手洗いのタイミング、方法の徹底
- ・原材料の温度管理を徹底し、納品時には食品の表面温度を測定
- ・原材料の相互汚染を防ぐため、肉類、魚介類、野菜類の種類ごとに区分して保管

### 原則2 細菌を増やさない（細菌が繁殖しやすい20℃～50℃の状態を短くする工夫）

- ・盛り付け終了後、速やかに10℃以下または65℃以上に設定された温冷配膳車へ収納する
- ・調理終了後、2時間以内に喫食できるように調理時間を調節

### 原則3 細菌をやっつける

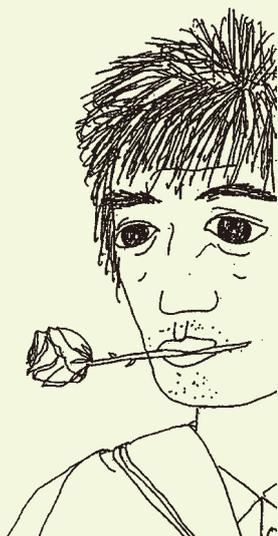
- ・野菜は次亜塩素酸ナトリウム溶液に浸して殺菌
- ・加熱調理食品は、85℃1分以上の加熱を徹底し、中心温度計で確認
- ・調理器具は、洗浄後、90℃の熱風保管庫で1時間加熱、乾燥させる



## 連携登録医のご紹介

### 齋賀 医院

さい が はじめ  
医院長 齋賀 一 先生  
ば ば かな こ  
副医院長 馬場 奏子 先生



医院長 齋賀 一 先生 自画像



副医院長 馬場 奏子 先生

### 医院長の5月連休の述懐

私の趣味は絵画と読書です。自称穏やかな人生を好む人間です。今回は5月の連休でしたので、少しは自分へのご褒美と洒落込んでITOYAと丸善の帰りに丸ビルのフランス料理を予約しました。夕方に妻と待ち合わせ、レストランに入るなり携帯がなり、患者さんの〇〇愛さんからでデイケアの帰りに発熱との事でした。外出中なので病院を探してもらいたい旨お話ししました。ディナーの運ばれる前に、やや罪悪感を懐きながら愛さんの家族に電話をしますと、労災病院で受け入れてもらい今向かっているとの事でした。労災病院にお礼の電話をしますと、担当の先生に「ご高齢なので入院して治療の予定とします」との優しく対応をしてもらいました。

マラソンの君原選手は一回もリタイアしなかったそうです。レース中に歩こうと思ったらその先の電信柱までと耐える、又、更にその先の電信柱を目標にしたとの事です。テープのない、どこにあるか分からないゴールを目指して時々歩いてしまいますが、その先の電信柱を目指して又走り始めようと思っています。

お陰様で妻と楽しいディナーのひと時を過ごせました。

(自称ランナーの医院長より)

### 副医院長ご挨拶

齋賀医院に平成29年より常勤として勤務しております、馬場奏子と申します。千葉ろうさい病院の先生方にはいつも大変お世話になり、お忙しい中緊急に御高診いただくことも多く、心より御礼申し上げます。

私は平成13年に順天堂大学を卒業後、精神医学講座に入局し、茨城県での精神科勤務も経て、齋賀医院では内科も勉強しております。内科にも様々な精神的問題を抱えた方がいらっしゃり、いつの間にか精神療法をすることもあります。当院にはご高齢の方も多いため、お年を重ねるうちに認知症も合併し、小沢義典先生を始め認知症疾患センターの先生方、スタッフの方のご指導の下診療させていただき、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

これからも千葉ろうさい病院の先生方、スタッフの皆様にご指導いただきながら精進してまいりたく、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

# 千葉ろうさい病院 理念

## 基本理念

私たちは、地域の人々、勤労者の方々に高度で安全な医療を提供します。

## 基本方針

1. 患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療を提供します。
2. 急性期医療・予防医療を担い、基幹病院として地域医療に貢献します。
3. 働く人々の健康を守り、社会復帰を支援します。
4. 豊かな人間性と高い技能を備えた医療人の育成をはかります。
5. 明るく向上心に満ちた職場をつくれます。



きれいに広がる空と田んぼの景色に心も和みます。

## 編集 後記

つい先日新年度に替わったと思ったらもう7月。月日が流れるのは本当に早いものです。今年は冬季のオリンピック・パラリンピックでずいぶん楽しませていただきましたが、今はワールドカップ真っ最中です。ひいき選手や世界的な名選手たちの美技・妙技を存分に堪能し元気をもらっています。

毎日暑くただらだらしがちですが、もらった元気を生かすべく、熱中症に気を付けて身体を動かしてみようと思います。

良い夏にしたいものです。

山本 誠（中央検査部）